

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)／武田  
清

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

##### ①授業内容

新指導要領によれば、高校までの理科内容が大幅に増加し、おそらく本学のカリキュラムで育成可能な専門的力量では、理科教員として不十分になる。理科の専門的知識は、卒業後身につけるのが非常に困難で、常に専門書と首っ引きになるぐらいの努力が必要である。従って、授業内容をより専門性の高い内容にシフトし、卒業後の教員生活に置いて、化学に関する専門書を読みこなす能力を育成するようになっていく。

##### ②授業方法

これまでは、4年次対象の授業は講義中心であったが、セミナー中心の授業に変更し、宿題を増やして、大学の授業のための自学自習の時間に振り替えさせるよう努力する。

##### ③成績評価

前述の通り、生半可な知識では学校現場で教えることができない状況がより顕著となってきたことを鑑み、成績評価をさらに厳格にして、一定レベルに到達していないと考えられる受講者には再履修を促すよう心がける。

#### 2. 点検・評価

##### ①授業内容

授業内容の高度化について、従来と比較してやや内容を増やすことができたが、顕著な変更には至らなかった。今後さらに内容の充実に努める予定である。

##### ②授業方法

授業方法をセミナー中心のものとすることはできなかった。4年次後期の授業であるため、卒業研究の忙しさから、授業への出席が滞りがちで、何とか単位修得がゆるされるという程度であったためである。この修正の方向は今後見直す必要がある。

##### ③成績評価

成績評価をやや厳格にした。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

教育方法について、より双方向性の高い授業形態を実現するため、大教室での授業にピア・インストラクション法を応用した授業の効率化を目指す。

#### 2. 点検・評価

後期開講の学部授業「初等理科」において、自作のリアルタイム回答集計システム“Vote on the Web (VoW)”を利用し、大講義室でのピア・インストラクション法を応用した授業実践を行った。本方法の主眼である、受講者間の対話を通じた授業参加促進は進んだと考えている。しかしながら、VoWへの投票は期待したほど多くはないことがわかった。現システムでは、投票への参加者を特定できないなど、システム上の限界があることが理由と思われる。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

従来より続けている過冷却液体の物理についてより深化させ、ラマン分光法を用いた研究を推進する。

#### 2. 点検・評価

過冷却液体およびその中で観察される現象の研究を続けている。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

大学院教務委員として大学運営に関わる。

### 2. 点検・評価

大学院教務委員としての職責を全うしている。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

フレンドシップ事業としての理科実験教室の開催して地域社会に貢献する。  
留学生を受入れ, 国際交流に貢献する。

### 2. 点検・評価

フレンドシップ事業としての理科実験教室は鳴門市大津西小学校において計画通り実施した。  
中国からの大学院留学生を受入れているが今年度は休学中である。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)